

## 歴史(室町時代④・農業と商業編)

農業では、①\_\_\_\_\_ が広がり、かんがい②\_\_\_\_\_ を、肥料に牛馬のふんや③\_\_\_\_\_ を使うようになり、収穫が増えた。また、手工業では、西陣(京都府)などの④\_\_\_\_\_ や酒などの特産物が各地で生産された。

商業では、土倉や酒屋などが、同業者ごとに⑤\_\_\_\_\_ と呼ばれる団体をつくり、武士や貴族に税を払うかわりに⑥\_\_\_\_\_ 権利を認められた。

農村では、有かな農民を中心に村ごとにまとまり、⑦\_\_\_\_\_ と呼ばれる自治組織をつくり、⑧\_\_\_\_\_ を開いて村のおきてを定めた。団結を固めた農民は、荘園領主や守護大名にも抵抗するようになり、⑨\_\_\_\_\_ 交渉をした。また、15世紀になると、土倉や酒屋などをおそ、て借金の帳消しなどを求める⑩\_\_\_\_\_ が起こるようになった。

